

192120-4 アルミフィン専用洗剤 フィン風神 $\alpha$   
株式会社ユーホーニイタカ

作成日：2017年11月9日  
改定日：2020年11月5日

## 安全データシート

### 【1. 化学物質等及び会社情報】

製品名	アルミフィン専用洗剤 フィン風神 $\alpha$
会社名	株式会社ユーホーニイタカ
住所	〒300-2521 茨城県常総市大生郷町6136番地7
電話番号	0297-24-2535
FAX番号	0297-24-2537
担当部門	本社工場 研究開発課
緊急連絡電話番号	0297-24-2535

### 【2. 危険有害性の要約】

#### GHS分類

物理化学的危険性	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分4
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：気体）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
急性毒性（吸入：粉塵およびミスト）	区分外
皮膚腐食性／刺激性	区分1
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分1
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分1（全身毒性、呼吸器） 区分2（神経系、肝臓）
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分2（中枢神経系）
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境有害性（急性）	区分2
水生環境有害性（慢性）	分類できない

#### GHSラベル要素

絵表示またはシンボル：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

金属腐食のおそれ  
飲み込むと有害（経口）  
重篤な皮膚の薬傷および眼の損傷  
臓器の障害（全身毒性、呼吸器）  
臓器の障害のおそれ（神経系、肝臓）  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ（中枢神経系）

水生生物に毒性

注意書き

[安全対策] :

保護手袋／保護眼鏡を着用すること。  
 ミスト／スプレーを吸入しないこと。  
 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。  
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
 取扱い後は手をよく洗うこと。  
 他の容器に移し替えないこと。  
 環境への放出を避けること。

[応急措置] :

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
 皮膚（または毛）に付着した場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと。  
 皮膚を流水／シャワーで洗うこと。  
 汚染した衣類は再使用する場合には洗濯すること。  
 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 直ちに医師に連絡すること。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 直ちに医師に連絡すること。  
 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
 気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。  
 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。  
 密閉して保管すること。  
 耐腐食性／耐腐食性内張りのある容器に保管すること。  
 内容物／容器を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄すること。

[保管] :

[廃棄] :

【3. 組成、成分情報】

単一製品、混合物の区別  
 成分

混合物  
 アルカリ剤  
     水酸化ナトリウム  
     水酸化カリウム  
     2-アミノエタノール  
 防錆剤  
 金属イオン封鎖剤  
 安定化剤

【4. 応急措置】

吸入した場合

直ちに新鮮な空気の場所へ移動し、うがいをする。  
 異常のある場合は医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水で十分に洗い流す。  
 液が付着した衣服や靴は直ちに脱ぐ。  
 速やかに医師の診断を受ける。

目に入った場合

手当てが遅れると炎症を起こす恐れがある。  
 液が付着した衣服や靴は、よく洗ってから着用する。  
 そのまま放置すると失明の恐れがあるので、コンタクトレンズは外し、こすらずすぐに流水で15分以上洗い流す。その後、すぐに本品または安全データシート（SDS）を持参して眼科医の診断を受ける。

飲み込んだ場合

直ちに口をすすがせて多量の水を飲ませる。

意識のない場合には、口から何も与えない。  
無理に吐かせないで、速やかに医師の診断を受ける。  
濃い液を多量に飲み込んだ場合、  
手当てが遅れると生命にかかわる。

---

【5. 火災時の措置】

消火剤	粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水 この製品自体は、燃焼しない。
使ってはならない消火剤	知見なし
特有の消火方法	消火作業は、風上から行う。周囲の設備等に散水して冷却する。

---

【6. 漏出時の措置】

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業の際には、必ず保護具(ゴム手袋、保護眼鏡、保護衣、ゴム長靴等)を着用する。 屋内の場合、作業が終わるまで十分に換気を行う。 多量の場合、人を安全に退避させる。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。 大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。 漏出物を直接河川や下水に流してはいけない。
封じ込め及び浄化の方法・機材	少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。 多量の場合は、周囲への流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。 アルカリ性の製品なので、必要があれば酸で中和する。

---

【7. 取扱い及び保管上の注意】

取扱い	
技術的対策	取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。 取扱いは、換気のよい場所で行う。 保護手袋および保護眼鏡/保護面を着用すること。
局所排気・全体換気	換気を良くして使用することが望ましい。
注意事項	なし
安全取扱い注意事項	取扱い後は手・顔等を十分に洗い、うがいをする。
保管	
適切な保管条件	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 他のものと混同しないように保管する。
安全な容器包装材料	他の容器に移し替えない。 他の容器に移し替える場合は、当社指定の専用容器を使用する。 (商品名、使用方法、注意事項を明記した専用容器)

---

【8. ばく露防止及び保護措置】

保護具:	
呼吸器の保護具	必要に応じてマスクなどを着用
手の保護具	ゴム手袋
目の保護具	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	保護衣

## 【9. 物理的及び化学的性質】

外観	青色透明液体
臭い	原料臭
pH	12.25～12.75 (1.0%水溶液、25℃)
融点・凝固点	知見なし
沸点、初留点と沸騰範囲	知見なし
引火点	なし
自然発火温度	なし
燃焼又は爆発範囲の上限／下限	なし
蒸気圧	知見なし
蒸気密度	知見なし
比重 (相対密度)	1.14～1.18g/cm <sup>3</sup> (25℃)
溶解度	水と任意の割合で混合
オクタノール／水分配係数	知見なし
分解温度	知見なし

## 【10. 安定性及び反応性】

安定性	熱、光に対して比較的安定であるが、直射日光が当たる場所での保管は控える。 衝撃に対しては安定である。
危険有害反応可能性	強アルカリ性の為、酸性物質と接触すると激しく中和反応・発熱反応を起こす。 すず、亜鉛等の金属を腐食して水素ガスを発生する。 (アルミニウムも高濃度液に接触することで水素ガスを発生する。)
避けるべき条件	酸性物質、酸性タイプのアルコール製剤との接触。
混触危険物質	亜鉛などの金属との接触
危険有害な分解生成物	知見なし

## 【11. 有害性情報】

皮膚腐食性	知見なし
目腐食性	知見なし
刺激性(目、皮膚)	知見なし
急性毒性	知見なし

## 【12. 環境影響情報】

分解性	知見なし
-----	------

## 【13. 廃棄上の注意】

【7. 取扱い及び保管上の注意】を参照する。  
内容物を関連法規制ならびに地方自治体の基準に従い廃棄する。  
使い終わった容器は、よく洗ってから処理する。

## 【14. 輸送上の注意】

国内規制	適用法令の定めるところに従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	直射日光を避け、高温のところに置かない。 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、 損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

## 【15. 適用法令】

労働安全衛生法第57条の2第1項の政令で定めるもの

水酸化カリウム 1%以上5%未満  
 水酸化ナトリウム 1%以上5%未満  
 2-アミノエタノール 5%以上10%未満

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律で定めるもの

第一種指定化学物質： 政令番号16 2-アミノエタノール (5.1%)

毒物及び劇物取締法	該当しない
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	該当しない
化審法	該当しない
消防法	該当しない

【16. その他】

記載内容の問い合わせ先

会社名	株式会社ユーホーニイタカ
住所	〒300-2521 茨城県常総市大生郷町6136番地7
担当部門	本社工場 研究開発課
電話番号	0297-24-2535
FAX番号	0297-24-2537

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意してください。

また、記載事項は通常の実験を前提としたものであるため、特別な取扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。